

追悼文

故佐々木嘉和先生を偲ぶ

オクラホマ大学名誉教授の佐々木嘉和先生は、2015年3月12日にルイジアナ州シュリーブポートの病院で、ご逝去されました。88歳でした。昨年の日本地球惑星科学連合大会に先生をお招きして国際セッションを企画したのですが、体調を崩されて来日していただく事が叶わず、少しくご容態を案じていたところの訃報でした。

佐々木先生は1955年に正野重方教授のご指導の下、東京大学で理学博士を取得され、翌年フルブライト研究員として渡米しテキサス A&M 大学で研究を開始されました。1960年には Walter Saucier 博士とともにオクラホマ大学へ移られ、気象学講座を創設されました。1967年教授に就任された先生のご尽力により、同大学はメソ気象学のメッカへと発展しました。

先生のご業績としては、変分法を気象学に初めて導入したことが、そしてそれが今日のデータ同化技術の発展に直接結びついていることを、まず挙げなくてはなりません。1955年、1958年に気象集誌に発表された2本の論文、さらに1970年に Monthly Weather Review に発表された論文をバイブルとして変分法の気象学への応用が始まります。初期には質量保存則を強拘束条件として観測風を同化するモデルが世に出ました。その後、数値予報が高度化し観測も多様化する中で、様々なデータ同化手法が開発されてきたこと、それを担ってきたのが世界で活躍する佐々木先生のお弟子さん達であることを、ここで敢えて述べるまでもないでしょう。

1980年には米国海洋大気庁とオクラホマ大学との共同研究組織である CIMMS (Cooperative Institute for Mesoscale Meteorological Studies) を設立され、所長としてシビア・ストーム研究を牽引されました。CIMMS に短期・長期滞在された気象学会員の方も沢山おられると思います。これらの功績により、2000年には日本気象学会藤原賞「メソ気象分野における研究推進と研究者育成」を受賞、2001年には日本気象学会名誉会員に推荐されました。因みに、先生は1956年には既に、気象学会賞「台風の進路予報の研究（都田菊郎博士と共著）」を受賞されています。

佐々木先生はまた、産官学連携の推進役としても大いに活躍されました。上述の CIMMS は官学連携の



例ですが、産業界との連携も推進されました。今のオクラホマ大学では、計測器会社、予報機関、民間予報会社等が大学スタッフや学生と同じ建物に住まい、研究/教育/現業が渾然一体に進められています。

佐々木先生のご活躍は、単に気象学のみではありませんでした。むしろ、それ以外の幅広い分野でのご活躍に素晴らしいものがありました。オクラホマ州をはじめとする米国での日本人社会と米国社会の橋渡し、京都府-オクラホマ州の姉妹協定他いくつもの姉妹都市締結の橋渡しとそれを通した日米の文化交流推進、学生留学の橋渡し等々。そう、産官学連携の推進も「橋渡し」と言えますね。その幅広い社会貢献により、オクラホマ州から「名誉日本総領事」に任じられるなど多くの組織から表彰されました。そして、平成16年には瑞宝中綬章を授与されました。

手許に August 1979と年月が入った B5判173頁の小冊子があります。私が修士1回生のとき、京都大学に滞在された先生が変分法の講義をされた時の講義資料です。易しくはない講義でしたが「…それでね、どういう御利益があるかといいますとね…」とにこやかに話しされたお姿が目につきます。御利益を「ごりえき」とおっしゃるのを聞いて「ああ、米国生活が長いのだなあ…」と勝手に納得してしまった自分でした。私自身は、この時の講義以外に先生に直接ご指導いただくことは残念ながらありませんでしたが、その後米国で、日本で、何度もご一緒させていただきました。ご冥福をお祈りいたします。

(京都大学防災研究所 石川裕彦)